

令和 6 年 6 月 26 日現在

機関番号：32816

研究種目：挑戦的研究（萌芽）

研究期間：2018～2023

課題番号：18K18672

研究課題名（和文）潜在保育士の保育士就労促進に対する職場の人間関係と社会的スキルトレーニングの効果

研究課題名（英文）Effects of workplace interpersonal relationships and social skills on employment promotion among nursery school teachers

研究代表者

日向野 智子（Hyugano, Tomoko）

東京未来大学・こども心理学部・准教授

研究者番号：20460040

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 4,300,000円

研究成果の概要（和文）： 保育士の就労を促進したり阻害したりする要因を探るために、職場の人間関係や保育士の社会的スキル、コミュニケーションに着目して検討を行った。

保育施設長を対象にしたインタビュー調査から、保育士間のコミュニケーションを円滑にするための工夫や保育士間の効果的なコミュニケーションを妨げる要因を明らかにした。保育士に行った社会的スキル・トレーニング（SST）では、自分の気持ちや意図を伝えるスキルと感情をコントロールしながら会話を進めるスキル得点が向上した。社会的スキルは職場のコミュニケーションに影響を及ぼすことから、SSTの導入は、保育士間の良好なコミュニケーションの促進につながることを示唆された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

保育現場では保育観がぶつかりやすく、個々人の主張の多さが良好なコミュニケーションを難しくすることが分かった。小規模施設では、上下関係や保育経験の差、職員同士が与え合う影響のインパクトが大きい。本研究では、自己理解や非言語的コミュニケーションと感情の統制に関する自己主張ゲーム、葛藤を引き起こすグループワークから社会的スキル・トレーニング（SST）を実施し、スキル得点の向上がみられた。保育士間のコミュニケーション不和の改善や効果的なコミュニケーションを促進するためのSSTは、価値観や個人差の影響が出やすい小規模施設ほど役立つであろう。

研究成果の概要（英文）： To explore factors that promote or hinder the employment of nursery school teachers, this study focused on workplace interpersonal relationships, communication, and social skills.

An interview survey of nursery school principals revealed their efforts to improve effective communication between nursery school teachers and factors that hinder effective communication. Social skills training administered to nursery school teachers improved their scores for skill of conveying one's feelings and intentions and in carrying on conversations while controlling emotions. Since social skills have an impact on communication in the workplace, the introduction of social skills training is suggested to promote good communication among nursery school teachers.

研究分野：社会心理学

キーワード：保育士 就労促進 職場の人間関係 コミュニケーション 社会的スキル 社会的スキルトレーニング

様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

1. 研究開始当初の背景

待機児童の解消に向けて、潜在保育士の保育職への就労促進が急務とされていた。東京では、保育士の有効求人倍率が5.0を超え、潜在保育士の保育士就労への期待が高かった。しかし、潜在保育士が採用面接を受けても採用に至らないケースも見受けられ、慢性的な保育士不足が続いていた。

潜在保育士を不採用とした理由をみると、「社会性・社会常識の欠如」(81.6%)や「コミュニケーション能力の低さ」(76.0%)があがっており、次点の「保育士としての実務経験のなさ」(31.5%)を大きく上回る(平成23年度厚生労働省委託事業『保育士の再就職支援に関する報告書』)。また、保育士として勤務していたことのある潜在保育士の離職理由では、職場環境としての「人間関係」(26.5%)が最も高い(平成23年度潜在保育士ガイドブック)。これらの結果から、潜在保育士の社会性やコミュニケーション能力の低さが、保育士就労を妨げる要因になり得ると考えた。

潜在保育士の保育士就労を促進するためには、コミュニケーション能力や職場の人間関係を良好に築く能力を高めることが求められるが、そのような研修や支援、教育はほとんどなされていない。コミュニケーション能力の低さは、対人サービスにおける職業意欲の低下を引き起こす(日向野他, 2004)ことが明らかになっているが、コミュニケーション能力とワーク・モチベーションとの関連から、潜在保育士の就労促進効果を検討する研究もなされていない。

2. 研究の目的

研究当初の目的は、潜在保育士と現職保育士および保育士養成校の学生を対象に比較しながら、潜在保育士の就労を促進する心理学的要因を明らかにすることであった。コミュニケーション能力が職場の人間関係に対する不安やストレスを低下させ、保育士ワーク・モチベーションを高め、保育士就労を促進するという仮説モデルを構築し、コミュニケーション能力の向上のための社会的スキル・トレーニング・プログラムの作成と検証を行うことが研究全体の目的であった。

しかし、2018年12月頃から始まった新型コロナウイルス感染症のまん延により、当初の研究目的の検証が困難になった。研究対象は現職保育士に限られ、主として、研究1「保育士間の良好なコミュニケーションや連携を促進または妨げるようなコミュニケーションとはどのような特徴をもつのかを探る」、研究2「保育士を対象とした社会的スキル・トレーニング・プログラムの効果を検証する」ことを目的とした。

3. 研究の方法

研究1

対象者：小規模保育所5園、中規模認可保育所2園、大規模認可保育所3園の園長10名を対象にインタビュー調査を行った。被面接者の年齢(園長経験年数)は、30代1名、40代3名、50代1名、60代2名、不明3名、園長経験年数は3から12年であった。

質問項目：保育士間の連携がうまく行っている時のコミュニケーションの様子。保育者間の連携がうまくいくように、施設長が個人的に工夫していること。保育者間の連携がうまくいくように、園全体として工夫していること。保育者間でコミュニケーションをとろうとしたが失敗した例やコミュニケーションをとろうとしないで失敗した例。職員間のコミュニケーションについて、困っていること。職場のコミュニケーションを円滑にするために、今後どのような工夫が必要だと思うか。

分析方法：発話データをテキストマイニングソフトであるKHCoder(樋口, 2014)に読み込み、言葉の出現頻度や言葉同士の関連を検討した。

研究2

対象者：複数の保育園を対象に社会的スキル・トレーニング(以下、SST)への参加を呼びかけ、現職の保育士25名が参加した。

SST：自己や他者への気づきを高めることに注力した体験学習型のSSTを実施した。プログラムは、自己理解を深めるゲーム、非言語コミュニケーションと感情の統制に関するアサーションのゲーム、関係葛藤と課題葛藤を引き起こすグループワークの3タイプであった。SSTは、講義とワークに関するディスカッションを入れながら、1日で実施した。

社会的スキルの測定：SST開始前と実施後に、ENDE2(堀毛, 1994)により、社会的スキルの程度を測定した(5段階評定)。

4. 研究成果

研究1

効果的なコミュニケーションの特徴 良好なコミュニケーションで話される内容は、職務に関することと「プライベートな話をする」などのように、職務とは異なる私的な内容であった。また、「自分の意見を発信する」「自分の意見だけでなく他者の意見を聞く」など、自己主張をするとともに傾聴の重要性や相手を思いやるコミュニケーションは、保育士間の良好なコミュニケーションにつながっていた。

良好なコミュニケーションの特徴として、小規模園では、休憩や勤務時間外を利用した会話が見られた。中規模園では、気持ち、お互い、共有、プライベートといった言葉同士の関連が強く、個人の内的な側面を重視したコミュニケーションを行っていると考えられる。また、大規模園では、朝礼、挨拶、言葉、伝える、理解といった言葉の関連が強く、施設全体や職務に関するコミュニケーションを重視しているときに、コミュニケーションがうまくいっているようであった。

非効果的なコミュニケーションの特徴 最も出現頻度の高かった「言う」は、不満や文句、相手への要望、主張などを含むネガティブな言葉との関連が強かった。「自分」は、「指導」や「意見」とつながり、「指導」は「主任」や「職員」とつながっていた。これらは、自分になんらかの非が向けられるコミュニケーションにおいて、多く出現していた。さらに、「先輩」「後輩」「若い」などの上下関係を表す言葉の関連がみられ、「若い子」や「今の子」、「うまくいかない子」など、コミュニケーションに問題があると思われる保育士とのやりとりにおいて、コミュニケーションが難しくなるという特徴がみられた。

頻出語や共起関係の結果から、保育士間の連携の妨げになるようなコミュニケーションにおいては、個々人の「主張」が多く、その結果、良好なコミュニケーションを「難しい」ものにしていてと考えられる。特に、小規模施設においては上下関係や経験などの影響が大きいことから、保育士間のコミュニケーションは、小規模施設ほど難しいとも考えられる。このような傾向は、保育士の早期離職や職場の人間関係がメンタルヘルスに与える影響などにも通じる可能性があり、施設規模と保育士間のコミュニケーションとの関連について、さらなる検討が必要であろう。

研究2

SST 前後の比較 ENDE2 によって測定された記号化・解読・統制スキル得点を算出し、社会的スキルの向上度合いを検討した。その結果、記号化（自分の思いや意図を正確に相手に伝えるスキル）と統制スキル（感情をコントロールしながら会話を進めるスキル）が、SST 前よりも SST 後に高くなっていた（Figure1）。

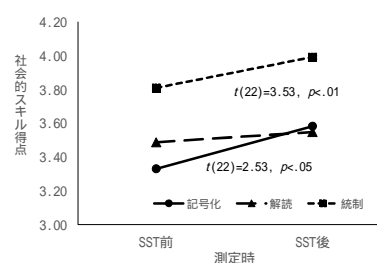
職位や年齢による差異 SST の前後にかかわらず、施設長や主任などの責任者の立場にある者（ $n=8$ ）は、クラス担任の保育士（ $n=13$ ）よりも記号化と解読（相手の意図や感情を読み取るスキル）のスキルが高い傾向であった。また、SST 前後や職位にかかわらず、保育士の年齢が高いほど記号化と解読スキルの得点が高かったが、統制スキルと年齢との関連はなかった。

保育現場における SST の活用可能性 本プログラムは1日という短い間での SST ではあったが、保育士のコミュニケーションスキルのうち、思いを伝える記号化スキルや感情をコントロールしながら会話を進める統制スキルを向上させる効果をもつことが示された。統制スキルは、SST 前よりも SST 後に向上したが、保育士の年齢や職位による差はみられていない。そのため、統制スキルは経験や発達によって自然と向上させることが難しいことが示唆される。保育現場は常に人手不足であり、施設単位や複数日程での SST 実施は現実的ではない。短時間でも保育士間の社会的スキルは向上することが本研究から示されたため、気づきに注目した体験学習型 SST の実施により、向上の難しい統制スキルを高められる可能性を示された。

まとめ

保育の現場では保育観がぶつかりやすく、個々人の主張の多さが良好なコミュニケーションを難しくすることが分かった。また、施設規模によって取られるコミュニケーションの特徴が違ふ可能性が示されたことも本研究における有意義な結果であろう。小規模施設では、上下関係や保育経験の差、職員同士が与え合う影響のインパクトが大きい。そのため、保育士間のコミュニケーション不和の改善や円滑で効果的なコミュニケーションを促進するための SST は、価値観や個人差の影響が出やすい小規模施設において、より重要な意味をもつと考えられる。すべての保育士および保育施設に適した SST 研修は有意義なものであるが、最初に就業する予定の保育施設の規模にあわせた保育士間コミュニケーション・スキル・トレーニングを行うことで、若い保育士の早期離職を防ぐことが可能になるかもしれない。

Figure1 社会的スキル得点のSST前後の比較



5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 藤後 悦子・日向野 智子・山極 和佳・角山 剛	4. 巻 34
2. 論文標題 女性保育者の職場ハラスメントとストレス 保育士と幼稚園教諭の比較	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 ストレス科学研究	6. 最初と最後の頁 1-8
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.5058/stresskagakukenkyyu.2019004	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 磯友輝子・日向野智子・藤後悦子・山極和佳・高橋一公・角山剛	4. 巻 119(252)
2. 論文標題 保育士同士の効果的なコミュニケーション	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 電子情報通信学会技術研究報告	6. 最初と最後の頁 77-81
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 日向野智子・磯友輝子・藤後悦子・山極和佳・高橋一公・角山剛	4. 巻 119(252)
2. 論文標題 保育士就労における不安・ストレスの再分析 - 潜在保育士と現職保育士の比較検討 "	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 電子情報通信学会技術研究報告	6. 最初と最後の頁 71-76
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計10件（うち招待講演 0件/うち国際学会 1件）

1. 発表者名 藤後悦子・日向野智子・磯友輝子・高橋一公・及川留美・大坊郁夫・角山剛・山極和佳
2. 発表標題 保育者が長く職場で働くために：保育者の職場の人間関係とコミュニケーション、社会的スキルを中心に（公募シンポジウム）
3. 学会等名 日本心理学会第87回大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 日向野智子・磯友輝子・藤後悦子・高橋一公・角山剛
2. 発表標題 保育現場における職員間コミュニケーションを円滑にするための工夫
3. 学会等名 日本応用心理学会第88回大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 日向野智子・藤後悦子・磯友輝子・山極和佳・高橋一公・角山剛
2. 発表標題 保育士同士の非効果的なコミュニケーション
3. 学会等名 産業・組織心理学会第37回大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Yukiko Iso, Etsuko Togo, Tomoko Hyugano, Waka Yamagiwa
2. 発表標題 Examining the effectiveness of social skills training programs for nursery teachers.
3. 学会等名 ICP2020 (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 藤後悦子・山極和佳・磯友輝子・日向野智子・高橋一公・角山剛
2. 発表標題 保育の場で働く人々のメンタルヘルス(2) 保育者の経験年数による違い
3. 学会等名 日本心理学会第83回大会, 2A-090
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山極和佳・藤後悦子・日向野智子・磯友輝子・高橋一公・角山剛
2. 発表標題 保育の場で働く人々のメンタルヘルス(1) 役割・職種による違い
3. 学会等名 日本心理学会第83回大会, 2A-089
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 磯友輝子・日向野智子・藤後悦子・山極和佳・高橋一公・角山剛
2. 発表標題 保育士同士の効果的なコミュニケーション
3. 学会等名 電子情報通信学会ヒューマンコミュニケーション基礎研究会(HCS), HCS2019-53.
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 日向野智子・磯友輝子・藤後悦子・山極和佳・高橋一公・角山剛
2. 発表標題 "保育士就労における不安・ストレスの再分析 - 潜在保育士と現職保育士の比較検討 "
3. 学会等名 電子情報通信学会ヒューマンコミュニケーション基礎研究会(HCS), HCS2019-52.
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 日向野智子・藤後悦子・山極和佳・磯友輝子・高橋一公・角山剛
2. 発表標題 保育士のコミュニケーションスキルと精神的健康との関連 - 男性保育士の精神的健康はコミュニケーション次第?
3. 学会等名 日本応用心理学会第85回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 保育士のコミュニケーションスキルが保護者対応に与える影響
2. 発表標題 日向野智子・山極和佳・藤後悦子・磯友輝子・高橋一公・角山剛
3. 学会等名 産業・組織心理学会第34回大会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	磯 友輝子 (Iso Yukiiko) (00432435)	東京未来大学・モチベーション行動科学部・教授 (32816)	
研究分担者	藤後 悦子 (Togo Etsuko) (40460307)	東京未来大学・こども心理学部・教授 (32816)	
研究分担者	角山 剛 (Kakuyama Takashi) (60160991)	東京未来大学・モチベーション行動科学部・教授 (32816)	
研究分担者	高橋 一公 (Takahashi Ikkou) (60319093)	東京未来大学・モチベーション行動科学部・教授 (32816)	
研究分担者	山極 和佳 (Yamagiwa Waka) (90350446)	東京未来大学・モチベーション行動科学部・准教授 (32816)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------